

2. 差異の理由

個別業績については、売上高は、情報システムを中心に受注が拡大し、期初計画を若干上回る実績となりました。利益面では、全社的な原価及び経費低減活動の効果に加え、当初見込んでいた特別損失の計上がなかったことにより、期初の利益計画を上回りました。

連結業績については、売上高は、北米が減収となったものの他の地域の増収でカバーし、概ね期初計画どおりの実績となりました。利益面では、個別業績が増益基調となり、国内・欧州・アジアのグループ会社の業績は好調に推移したものの、北米の業績回復が当初想定より遅れたことにより、営業利益及び経常利益については期初計画を下回りました。

なお、平成 31 年 3 月期通期の業績予想に変更はありません。ただし、今後の経営環境を踏まえ、業績予想の修正が必要である場合には、適時に開示してまいります。

以 上